

畜産もがみ

第
51
号

● 発行 ●

最上地域農業・畜産振興協議会
住所：新庄市金沢字大道上 2034
(最上総合支庁農業振興課内)
TEL 0233-29-1061
令和8年3月31日発行



第48回山形県畜産共進会

「なな」号

(優秀賞1席、品位賞、特別区1席入賞)

県産種雄牛「丸藤3」号産子

も く じ

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| ◆令和7年度最上地域畜産振興研究会・・・P1 | ◆牛用繁殖器具「YAM牛用スリットガイド」・・・P6 |
| ◆令和7年度最上地域畜産関係共励会・・・P2～3 | ◆プレミアム受精卵産子誕生・・・P7 |
| ◆第48回山形県畜産共進会・・・P3 | ◆家畜の感染症をめぐる最近の動向・・・P8 |
| ◆県有種雄牛「丸藤3」号の子牛情報・・・P4 | ◆令和7年次最上管内の病類別死廃事故状況・・・P9 |
| ◆子実用トウモロコシ生産と鳥獣害対策・・・P5 | ◆家畜改良増殖法の遵守の徹底について・・・P10 |
| ◆令和7年度中小家畜ブランド向上検討会・・・P6 | ◆令和7年次最上子牛市場取引状況・・・P11 |

令和 7 年度最上地域畜産振興研究会を開催しました！

最上総合支庁農業振興課

令和 8 年 2 月 17 日（火）、最上総合支庁 5 階講堂において「令和 7 年度最上地域畜産振興研究会」を開催しました。本研究会は、飼料価格の高止まりや物流費・資材費の上昇、人手不足、消費者ニーズの多様化といった厳しい経営環境を踏まえ、最上地域の畜産経営の安定化と持続的発展を目的に開催したものです。

講師に高橋畜産食肉株式会社代表取締役の高橋勝幸氏を招き、演題『これからの牛肉生産～高橋畜産グループの挑戦～』として講演していただきました。管内の肉用牛・酪農・養鴨事業者など約 40 名が参加し、地域の現場が直面する課題とその解決策について見識を深めました。参加者からは、経営や市場対応に関する具体的な留意点や取り組み方について理解が深まったとの声をいただきました。

1 現状分析

- ①資源価格の高騰、円安による輸入コスト上昇、運賃高
- ②繁殖基盤の縮小による子牛需給のひっ迫
- ③消費者の節約志向による需要低迷

肉用牛肥育は「三重苦」の状況

2 消費回復に向けた多面的な取組み

- ①贈答や景品に牛肉を活用
- ②外食産業と連携して利用を促進
- ③地域で会食の機会を創出
- ④生産背景や生産者の取組みを伝える情報発信
- ⑤牛肉の栄養的な価値の周知

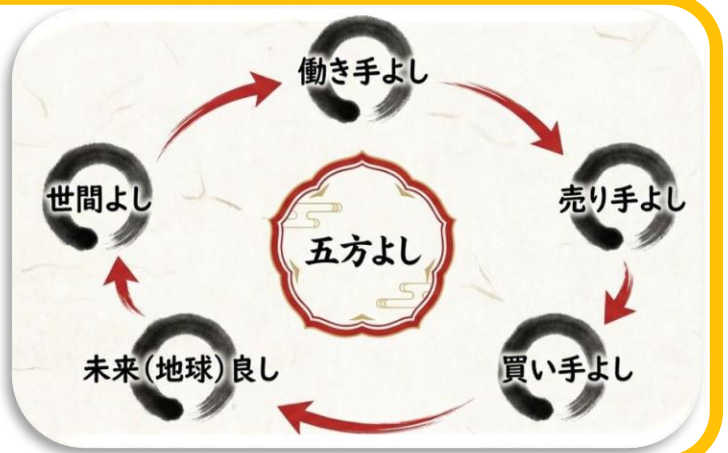
長期的な食肉需要につなげる

- 『消費者との接点を増やす』
- 『品質管理や安全性の確保』
- 『生産のストーリー性』
- 『環境配慮を訴求』

3 『五方よし（働き手・売り手・買い手・未来・世間）』

産業の持続性確保のために

- ・「リスクをどう分散するか？」
- ・「働き手が長続きできるか？」
- ・「お客様は明確か？」
- ・「自分のオンリーワンは何か？」
- ・「販売戦略はどうか？」
- ・「財務は健全か？」
- ・「夢があるか？」
- ・「楽しいか？」



【農業振興課より】

食と国土を守る畜産の価値は不変です。世のために役立つ仕事であり、知恵と工夫で成長できる面白さがあります。現場で積み重ねられる営みこそが、地域や国を支える力です。

厳しい状況が続く今こそ、現場の知恵や工夫の重要性は増えています。畜種を問わず培ってきたノウハウや成功事例は大切な資産です。皆さんの一歩一歩が地域の力となり、やがて国の基盤を支える柱になります。今後も連携を深めながら前へ進んでいきましょう。



研究会の様子



令和 7 年度最上地域畜産関係共励会表彰式

最上総合支庁農業振興課

令和 8 年 2 月 17 日(火)に、最上総合支庁 5 階講堂において、令和 7 年度最上地域畜産関係共励会表彰式を開催しました。管内関係者のご臨席の下、各共励会の入賞者に賞状(最上地域農業・畜産振興協議会長賞など)及び副賞を贈呈しました。

○ 肉用子牛出荷共励会

令和 7 年 1 月から 12 月にかけて、山形最上家畜市場へ 3 頭以上出荷した生産者の和牛子牛データを対象に、次の 4 項目を審査しました。

①出荷時の日齢当たり体重、②同じく日齢当たり価格、③出荷日齢、④母牛の分娩間隔(初産牛は初産日齢)です。令和 7 年の全体平均は、①日齢当たり体重 1.19 kg、②日齢当たり価格 2,280 円、③出荷日齢 281 日、④分娩間隔 447 日でした。

分娩間隔が昨年より延びた要因としては、受精卵移植の取組みや個々の経営判断による出荷時期の変更などが考えられます。

基本となる繁殖管理はしっかり維持しつつ、現場の実情に応じた工夫を重ねていただき、良好な繁殖成績につなげていただきたいと思います。

○ 牛枝肉共励会

令和 7 年 6 月 16 日(月)開催の「第 8 回 JA 総称山形牛枝肉共進会」に出品された枝肉のうち、最上地域の生産者の出品分を対象に審査しました。

令和 7 年度の出品は去勢 4 頭、雌 11 頭の計 15 頭で、枝肉等級は A 5 が 13 頭、A 4 が 2 頭という結果でした。BMS の平均は 9.5 で、No.12 が 4 頭、No.11 が 1 頭、No.10 が 2 頭でした。また、枝肉重量の平均は 491 kg と、肉質・肉量ともに高水準の出来となりました。

飼料や燃料の高騰が依然として経営を圧迫する中、飼養管理技術の研鑽により所得向上を図り、高品質な「総称山形牛」を消費者へ届けていただきたいと思います。



受賞者の皆様

肉用子牛出荷共励会入賞者(敬称略)

区分	賞席	氏名	市町村	所属農協
第 1 部 (10 頭以上)	第 1 位	山科 三夫	新庄市	もがみ中央
	第 2 位	高山 正靖	新庄市	もがみ中央
	第 3 位	笹 直樹	新庄市	もがみ中央
第 2 部 (6 ~ 9 頭)	第 1 位	土田 政広	真室川町	もがみ中央
	第 2 位	今村 彦也	金山町	金山
	第 3 位	峯田 英也	新庄市	もがみ中央
第 3 部 (3 ~ 5 頭)	第 1 位	中鉢 新一	新庄市	新庄市
	第 2 位	奥山 仁明	新庄市	もがみ中央
	第 3 位	佐藤 洋	真室川町	もがみ中央

牛枝肉共励会入賞者(敬称略)

賞席	氏名	市町村
最優秀賞	伊藤 英悦	新庄市
優秀賞	加藤 優志	金山町
優良賞	星川 茂樹	新庄市

○ 乳質改善共励会

毎月上旬と下旬に実施している乳質検査のうち、令和7年6月～9月の計8回分のデータを抽出し、①細菌数、②体細胞数、③無脂固形分率、④乳脂肪率の4項目について審査しました。

全体の平均値は、細菌数 20 千個/ml、体細胞数 20.7 万個/ml、無脂固形分率 8.78%、乳脂肪率 3.98%と、概ね良好な結果となっています（令和6年と比べ、体細胞数以外は改善）。

今後も基本的な搾乳手順と機器の点検を徹底するとともに、気候変動や飼養環境の変化に応じた管理を継続し、高品質な生乳生産に努めていきたいと思っております。

乳質改善共励会入賞者(敬称略)				
区分	賞席	氏名	市町村	所属農協
第1部 (20頭以上)	第1位	田宮 広行	新庄市	新庄市
	第2位	白畑 義彦	新庄市	もがみ中央
	第3位	阿部 喬	新庄市	新庄市
第2部 (20頭未満)	第1位	石塚 勝也	新庄市	もがみ中央
	第2位	加藤 清一	大蔵村	もがみ中央
	第3位	林 多栄美	大蔵村	もがみ中央

第 48 回山形県畜産共進会が開催されました

最上総合支庁農業技術普及課

令和7年10月31日(金)に第48回山形県畜産共進会(肉用牛の部)が開催され、最上地域からも各區に牛が出品されました。当日は天候にも恵まれ、生産者がそれぞれの改良進捗を確認するとともに、関係者間の交流が図られ、非常に盛り上がった共進会となりました。以下各區で入賞・入席された最上地域の生産者を紹介します。

第 48 回山形県畜産共進会 (肉用牛の部) 入賞・入席者 (敬称略)



出品区	名号	出品者	市町村	入賞席
特別区 (県産種雄牛産子*1 生後6ヵ月齢以上 14ヵ月齢未満)	なな	加藤 優志	金山町	優秀賞1席、品位賞 特別区1席
	もずく	笹 直樹	新庄市	特別区3席
第1区 (若雌の1 生後14ヵ月齢以上 17ヵ月齢未満)	おつゆ	西村 伸之	真室川町	第1区3席
第4区 (繁殖牛群 母娘 14ヵ月齢以上)	りょうか ひめか	小川 正幸	最上町	第4区3席

*「丸藤3」号、「福秀165」号、「美勝喜」号、「美結喜」号、「福福照」号産子が対象で今年から新たに追加された出品区

特別区で優秀賞1席に入賞した「なな」号は、令和6年にデビューした期待の県産種雄牛「丸藤3」号産子です。発育が良く、中駆の長さや伸び、体上線、全体の幅に優れていると評価されました。子牛としてのつり合いも良好で、体高に対する長さや深さ、頭部と胴体のバランスといった均称がとれていることも高く評価されました。

入賞・入席された皆様おめでとうございます！

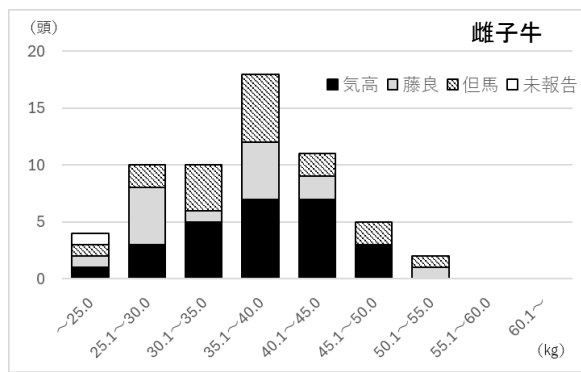
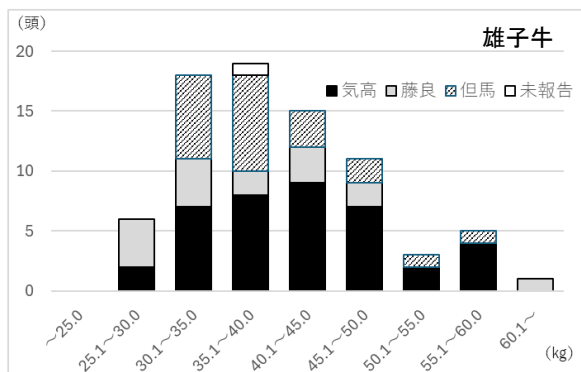
県産種雄牛「丸藤3」号の子牛情報

農業総合研究センター畜産研究所家畜改良部

令和6年9月にデビューした県産種雄牛「丸藤3」号については、多くの生産者の方々から精液をご利用いただき子牛も順調に生産されています。県がデータ収集した生時体重及び子牛の発育成績などについて情報提供いたします。

1 「丸藤3」号産子の生時体重について

令和7年1月～9月に生産された子牛の生時体重について、性別・母の父の血統別に取りまとめました。雄子牛の平均体重は40.8 kg、雌子牛は37.3 kgとなっており、特に気高系の母牛において生時体重40.1 kg以上の割合が雄子牛で56%、雌子牛で38%と平均以上となっていますので、気高系母牛への初産交配については配慮が必要かと思われます。



「丸藤3」号産子の性別・母の父別生時体重 (分布)

2 子牛市場上場時の発育成績について

令和8年1月5日(月)の最上子牛市場には19頭の「丸藤3」号産子が上場され、出品生産者の紹介やオリジナルたすきの贈呈などセレモニーが開催されました。令和8年1月までに最上・置賜両子牛市場に上場された去勢20頭の平均値は、月齢8.7カ月、体高116cm、体重309kg、一日平均増体量1.09kgで、特に体高において(公社)全国和牛登録協会の定める発育曲線の上限值にほぼ達しており、良好な発育であることが確認されています。令和7年12月時点での「丸藤3」号産子登録頭数は約370頭ですので、今後も県内子牛市場へ「丸藤3」号産子が多数上場されると予想されます。



最上子牛市場(1月)の様子

3 「丸藤3」号の利用推進

これからも多くの和牛繁殖農家・一貫農家の皆様から「丸藤3」号をご利用いただき、「総称山形牛」の生産拡大につながることをご期待申し上げます。また、当所では今後とも産子情報などを随時提供してまいりますので、県産種雄牛の活用について引き続きよろしくお願いたします。



山形県産種雄牛の
Instagramを始めました!

※右記二次元コードを参照ください



子実用トウモロコシ生産の取組み

最上総合支庁農業技術普及課

1 子実用トウモロコシの特徴と最上地域の状況

(1) 子実用トウモロコシとは

子実用トウモロコシは、主に家畜飼料の原料となる穀物です。栽培メリットは、①水田転作作物として利用可、②農地の有効活用と地力維持、③作業時間が他の作物と比べて短く省力的、④飼料自給率の向上、⑤地域農業の活性化に貢献などがあり、持続可能な農業を支える重要な作物として、最上地域でも栽培されています。

(2) 栽培のポイント

下表は子実用トウモロコシ生産の一例です。栽培に興味のある方や不明な点がある方は最上総合支庁農業技術普及課へお気軽にご相談ください。

時期	作業	ポイント
3～4月中旬	圃場選定	日当たり・排水良好な圃場を選定
4月中下旬	基肥・堆肥投入	適正量を施用
4月下～5月上旬	耕起・砕土・整地	均一な播種床を形成
5月中旬	播種・鎮圧	気候や収穫時期をもとに品種選定
	除草剤散布（土壌処理）	播種直後に実施して雑草を抑制
6月中下旬	除草剤散布（茎葉処理）	6～7葉期目で実施して雑草を抑制
8月上中旬 （絹糸抽出期）	害虫防除	アワノメイガによる食害防止
9月下～10月上旬	収穫	子実の水分含量 30%以下
	乾燥 or サイレージ化	カビ発生防止

(3) 令和7年度の最上地域の状況

今年度は真室川町・舟形町・鮭川村で栽培されました。一部の圃場では、春先の天候不順による播種の遅れや7月の水不足による生理障害の発生で生育はやや不良となり、さらに収穫期に鳥獣による食害が発生して減収や収穫できない圃場もありました。



圃場の様子（クマの食害）

2 子実用トウモロコシを守る ～クマ被害対策のポイント～

子実用トウモロコシ栽培でもクマ被害対策が不可欠です。ここでは、被害を抑えるための基本となる三本柱と実践的なポイントを紹介します。

(1) 生息環境管理→人里や農地へ近づけない

クマを呼び寄せる果樹や野菜の収穫残さ、家庭ごみなどの誘引物は除去し、隠れ場となる藪などを刈払って緩衝帯を整備しましょう。

(2) 侵入防止→農地に侵入させない

電気柵の設置が有効です。クマの場合は、ワイヤーの段数を多く（3段以上）して間隔を狭く（約20cm）し、農地を完全に囲うことがポイントです。トリップライン（地際の補強線）や丈夫な金属柵と電気柵を併用すると効果的です。電牧器・アース・ポールなどの適切な資材を用いること、漏電防止のための除草や定期点検を怠らないことが重要です。

(3) 個体群管理→生息数を適正に管理する

専門家や自治体と連携して捕獲や追い払いを行いましょう。地域で一致した方針を持つことが安全性向上につながります。国や自治体から電気柵導入や緩衝帯整備、捕獲経費の補助を受けられる場合があります。



電気柵の設置①



電気柵の設置②

最上産中小家畜ブランド向上検討会を開催しました

最上総合支庁農業振興課

最上地域の畜産物の価値向上を目的に、令和 7 年 12 月 3 日（水）に「最上産中小家畜ブランド向上検討会」を開催しました。会場には生産者、畜産関係団体、行政担当者ら約 30 名が集い、講演会と子実用トウモロコシを給与した鶏肉の試食を行いました。

1 地域産飼料の活用と畜産物のブランド化

最上地域でブロイラーの生産・加工・販売を手がける株式会社アイオイ代表取締役の五十嵐忠一氏から、農場 HACCP や JGAP などの認証取得による衛生管理体制や、地域産飼料を活用した循環型の飼養体系、加工品開発と販路拡大の取組みをご紹介いただきました。



講演会の様子

2 子実用トウモロコシを給与した鶏肉の試食

講演後、最上地域産の子実用トウモロコシを給与した鶏肉を参加者全員で試食しました。アンケート結果から、「味」、「食感」、「安全性」が購買決定の重要要素であること、飼料由来の風味差や調理・加工法による見せ方が大切であることがわかりました。



鶏肉の試食

また、「生産者紹介」、「HACCP・JGAP などの認証表示」、「ブランド名・ロゴ」、「調理法・レシピ提示」、「流通チャネル整備」の関心が高く、情報発信とトレーサビリティの整備が重要であることが確認されました。

今後も引き続き、最上地域の畜産物の価値向上に向けて、関係機関と連携して取り組んでまいります。

授精・移植作業を衛生的かつ簡便に

～ 「YAM 牛用スリットガイド」販売開始 ～

農業総合研究センター畜産研究所飼養管理部

畜産研究所が(株)富士平工業と共同開発した牛用繁殖器具「YAM 牛用スリットガイド」が、令和 7 年 8 月から販売開始となりました。従来の膣鏡に代わる、AI・ET 師向けの補助具として設計されており、より衛生的な繁殖技術による受胎率向上と繁殖作業のしやすさが期待されています。

本体は透明なポリカーボネート製で、重さは約 20g と非常に軽量です。長軸のスリット構造により注入器を挿入したまま本器具を取り外せます。器具の内部の洗浄・消毒も簡便に行えます。本器具は、動物用一般医療機器として承認されています。作業性を維持しながら、手に入りやすい価格帯にするために試行錯誤を繰り返しながら商品開発されました。複数本を常備することで複数の AI や ET の際にも使いやすい、また採卵などでも利用できるといった声が全国から寄せられています。ぜひ積極的に活用し、繁殖性の向上を図りましょう！

使用手順

1 牛の陰部に挿入

2 移植器を挿入

3 本製品取り外し

4 受精卵移植



使用手順



スリットガイド（大きさ比較）

プレミアム受精卵で牛群改良スピードアップへ

～ 🐮 最上町郷野牧場にて待望の雌産子が誕生 🐮 ～

農業総合研究センター畜産研究所飼養管理部



令和8年1月15日(木)、最上町郷野牧場で、待ちに待った県の『プレミアム受精卵』の雌産子が誕生しました。今ある環境や頭数を維持しながら、最善最速の牛群の改良スピードアップを目指して手にしたプレミアム受精卵から、ついに誕生した産子は、牧場と地域、酪農関係者に大きな喜びと希望をもたらしています。名号は、『ロッキーリッジ スーパードリーム G ザズル スター ET』。名前の通り、大きな夢をのせた“スター誕生”です。

プレミアム受精卵は、畜産研究所所有の遺伝的能力が国内トップクラスのドナーから作製した体外受精卵で、酪農家における牛群改良のスピードアップと飛躍的な生産性の向上が期待されます。



ロッキーリッジ スーパードリーム G ザズル スター ET

今回誕生した産子は、GTPI3363 で、県内1位かつ国内上位1%に入る高いゲノミック評価を持ち、また、生涯収益性の数値も都府県トップクラスの成績です。牛群の中でも、将来的に優れた産乳成績や繁殖能力を見込める重要な存在となります。郷野氏は「思いもしなかった夢が実現した。まるで映画スターウオーズのレイア姫が腕の中に降りてきたような気持ちです！ワクワク感が半端ないよ！」と喜びを語っています。

畜産研究所の担当者も「この笑顔があるから私たちも頑張っている。育成経過を見守り、初産後の牛群検定データを楽しみにしながらサポートし、遺伝的な能力と実績をみんなで一緒に確かめていきたい。」と話しています。

県内では、プレミアム受精卵により、国内トップクラスの遺伝的高能力牛が続々と誕生しています。中には、2産目を迎えた牛もあり、一般牛に比べて明らかに高い乳量実績と安定的な繁殖性を示し、稼ぎ頭になっているといった農場もあります。



喜びの郷野さんと産子

県では、後継牛確保対策事業により、農場で生産されたプレミアム受精卵産子など(ドナー)からフィールドOPUにより受精卵を作製し、さらなる遺伝的高能力牛の増産を図っています。郷野牧場のスターが1歳になったら、この事業により飛躍的な増産体制を構築していけるのではと期待しています。今回の1頭は、最上地域の酪農を未来へ導く“種火”になるはずで、今後も関係機関が一体となって山形県の酪農に新たな活力をもたらせるよう力強く支援していきたいと思っております。



郷野牧場にてサポーター集合！

家畜の感染症をめぐる最近の動向

最上総合支庁家畜保健衛生課

近年、口蹄疫やアフリカ豚熱など悪性家畜伝染病の国内侵入リスクが急速に高まっています。また、温暖化の影響で、これまで本県では未発生であった疾病が発生する可能性が出てきています。

1 口蹄疫

口蹄疫はアジア地域で常在化しており、日本と台湾以外は全て陽性国です（令和8年1月末に韓国でも発生）。

アジア地域からの訪日客と物資の増加に伴い、口蹄疫の国内侵入リスクが上昇しています。



牛：舌病変（宮崎県）



豚：蹄病変（宮崎県）

2 豚熱とアフリカ豚熱

豚熱は、平成30年9月以降、本県を含む24都県で計100例発生し、約43.6万頭の豚などが殺処分されました。現在、46都府県でワクチン接種を実施していますが、発生は散発的に続いており、昨年は群馬県で5例、千葉県で1例発生しています。

アフリカ豚熱は、強力な感染力と高い致死率（ほぼ100%）が特徴で、有効なワクチンがありません。現在、アジア地域の陰性国は日本のみで、近隣国は全て陽性国です。特に、韓国は今年1月以降に20例（全75例中）と急増しています（R8.2.26現在）。

3 高病原性鳥インフルエンザ

近年、毎年発生しており、今シーズンも14道府県で20例発生（採卵鶏15、肉用鶏4、うずら1）し、約487万羽が殺処分されました（R8.2.26現在）。

日本に飛来する渡り鳥（主にカモ類）が本病ウイルスを保有しているため、渡り鳥の飛来が始まる9月頃から大陸方面に帰る4月末頃まで、本病の発生リスクは続きます。

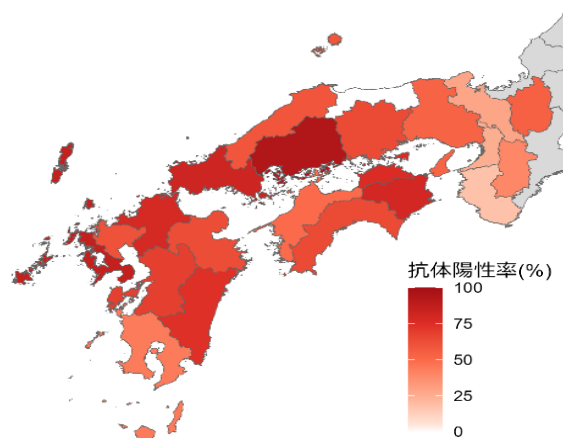
4 その他：牛異常産関連ウイルス北上のおそれ

アカバネ病のように牛に異常産を起こすアイノウイルス、ピートンウイルス、チュウザンウイルスなどは、従来、西日本や九州地方が流行地域でした。

しかし、ウイルスを媒介する蚊やヌカカが、温暖化によって生息域を拡大し、越冬も可能（以前は冬の寒さで死滅）になったことで、東北地方にもウイルスが運ばれる可能性が出てきました。

これらの対策として、以下のワクチンがあります。

参考 2025年県別アイノウイルス抗体陽転割合（戸数ベース）
（農林水産省）



牛異常産3種混合不活化ワクチン：アカバネ病、アイノウイルス感染症、チュウザン病

牛異常産4種混合不活化ワクチン：上記3種＋ピートンウイルス感染症

※ 両ワクチンとも初回は2回接種、次回から1回接種

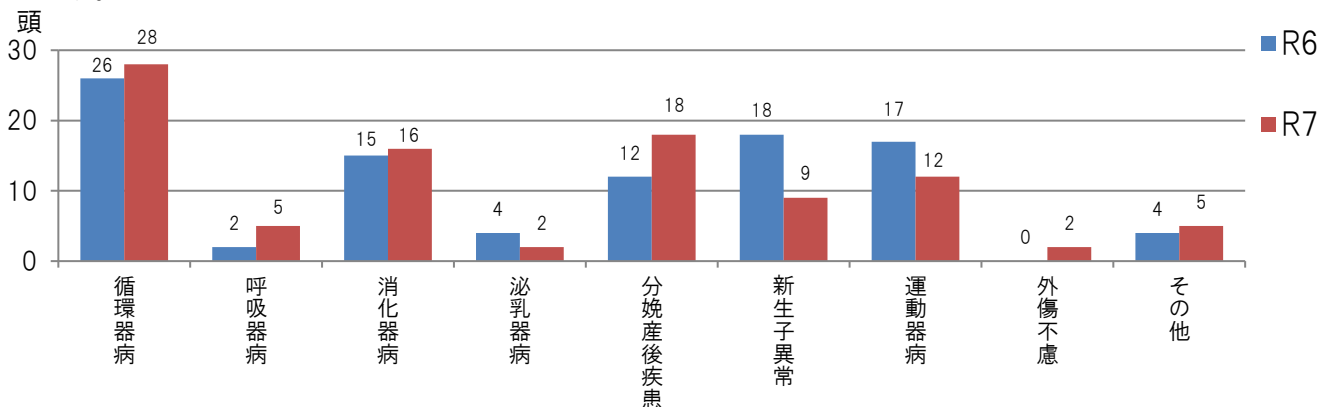
最上管内の病類別死廃事故状況

山形県農業共済組合

令和7年1月から12月までの最上地区における死廃事故の状況は、火災による複数頭の事故もあり、種豚を除くと前年よりも16頭の増加となっております。漏電などによる畜舎の火災は、どの農家でも起こりえる事です。もう一度、畜舎の点検をぜひ行ってください。また分娩時の子牛の事故は依然として多い状況です。分娩の立ち合いを徹底し、防げる事故は防ぎましょう。異常がある場合は直ちに獣医師に相談してください。

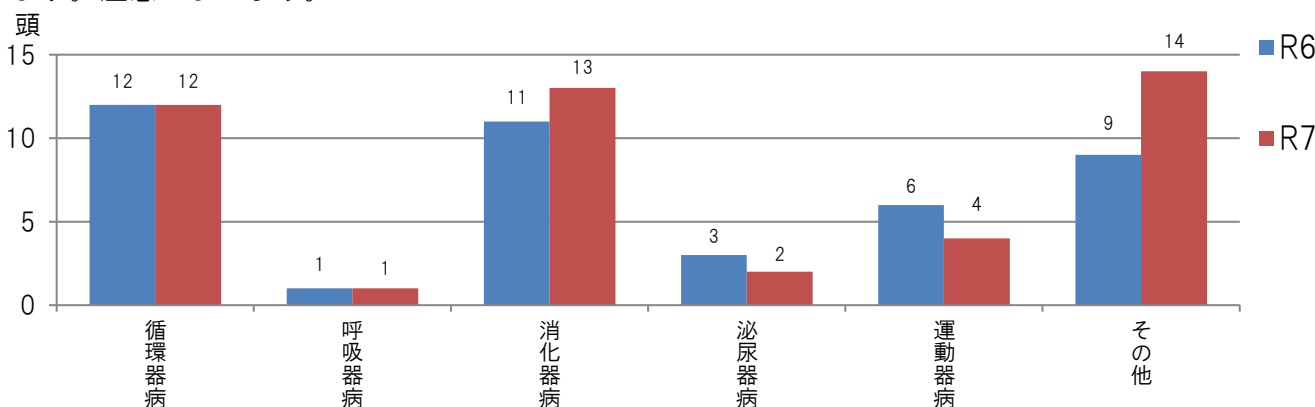
○ 乳用牛

分娩後の疾患が増加しています。乾乳期の飼養管理がとても重要ですので、もう一度見直してみましよう。



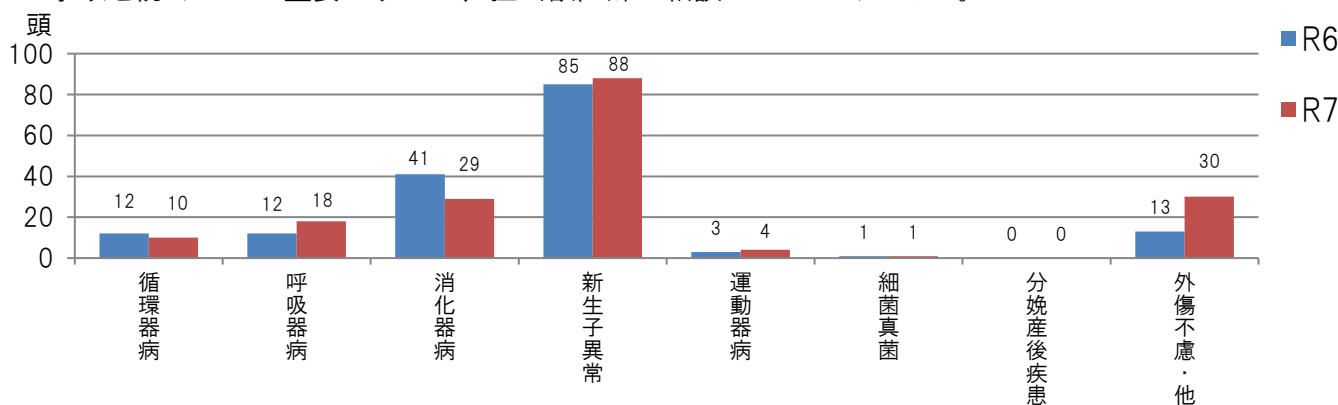
○ 肉用牛（肥育）

ビタミンAの過度の下げ過ぎや第一胃のコンディションを考慮しない飼養管理は事故の根源となります。注意しましょう。



○ 肉用牛（繁殖）

胎子死などの新生子異常が依然として全体の多くを占めています。分娩前の母牛の飼養管理も胎子の事故を防ぐために重要ですので、担当獣医師に相談してみてください。



家畜改良増殖法に基づく精液・受精卵の適正管理

～ ストロー・証明書・記録の管理ポイント ～

最上総合支庁農業振興課

家畜の精液及び受精卵（以下「精液等」という。）の適正管理は血統管理と不正流通防止の要です。ストローと各証明書などの管理と記録保存で和牛遺伝資源を守りましょう。

1 家畜改良増殖法に基づく実務的管理ポイント

1) 精液等の使用前：精液等ストローと精液等証明書を必ず照合

対応：精液等ストローを使用する前に、対応する精液等証明書（原本または写し）を受け取り、証明書番号・採取年月日が一致することを確認する。

メリット：使用前確認により、精液等証明書の後日渡しによる記録漏れが防げます。

2) 精液等の使用直後：精液等証明書の裏書き（注入・移植記録）をその場で記入

対応：注入・移植が完了したら、使用済み精液等証明書の裏書き欄に「日付・個体識別番号・授精者名」を記入し、授精簿と突合して保管する。

メリット：裏書きを速やかに行うことにより、照合作業がスムーズになります。

3) 精液等証明書・ストローの保管：未使用と使用済みは速やかに分別

対応：未使用精液等証明書・ストローと使用済み精液等証明書・ストローを物理的に分離して保管。使用済み精液等証明書・ストローは注入・移植した牛ごとにファイルを作成して保管する。

メリット：分別して保管することにより、確認作業の効率化と紛失が防げます。

4) 記録様式と保存期間の徹底：様式の統一、授精・移植台帳は5年、精液等譲渡等記録簿は10年保存

対応：法定様式を使用し、授精所内で記帳方法を統一する。授精・移植記録は最低5年間保存、精液等譲渡等記録簿は10年間保存。

メリット：様式の統一により、記載漏れ防止と確認作業が容易になります。

5) 精液等ストロー製造を外部委託する時：管理番号の記録と精液等証明書・ストローの同時移動を徹底

対応：精液等譲渡先・譲受元の管理番号を必ず記録。精液等証明書・ストローは一緒に移動させる。

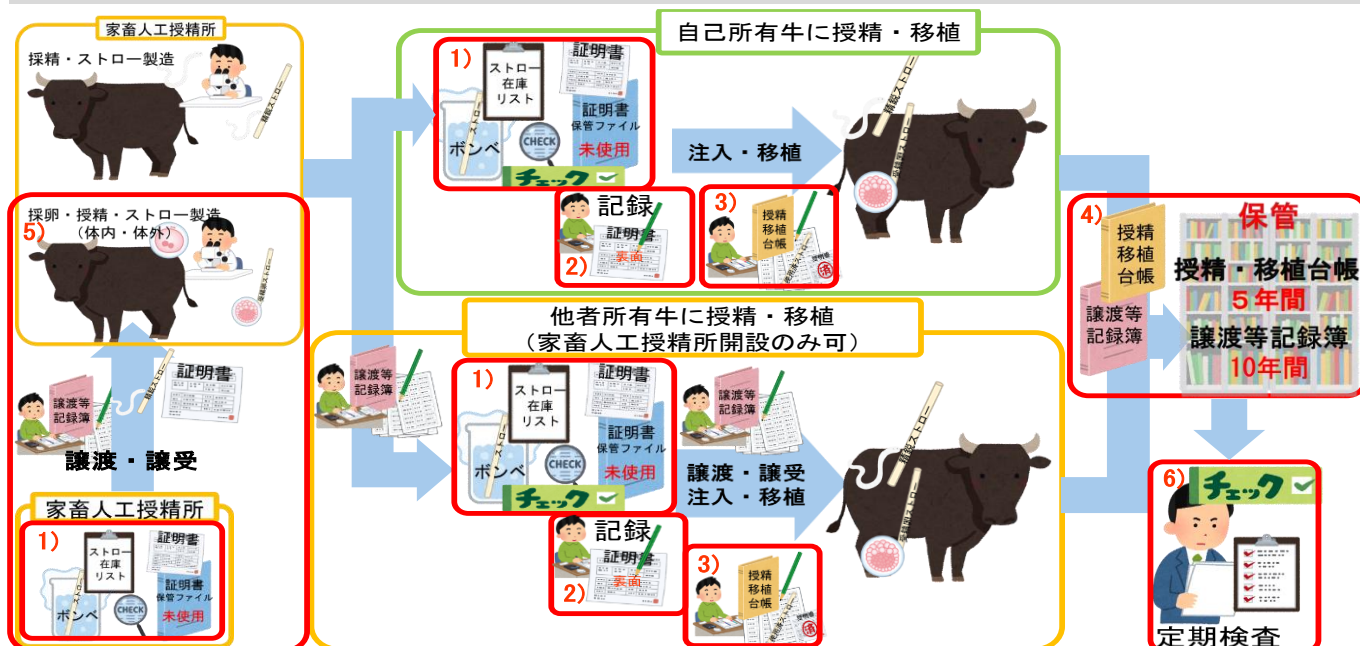
メリット：同時移動ルール徹底により、外部とのやり取りによる記録欠落が防げます。

6) 定期点検の実施：精液等証明書・ストローの在庫照合と精液等証明書の整備

対応：定期（月次など）で在庫精液等証明書・ストローの突合を行い、不一致は速やかに是正する。

メリット：不正流通や記録漏れが早期に発見できます。

2 管理ポイントのイメージ



最上子牛市場の取引状況

最上総合支庁農業技術普及課

令和7年次（2、8月を除く）の取引頭数は1,357頭（前年比92%）で、うち去勢は788頭、雌は569頭となりました。取引価格（税抜）の平均は562千円（前年比117%）で、去勢は589千円、雌は525千円でした。本年は、全国的に繁殖農家の離農などの影響で子牛の生産頭数が減少し、4月以降徐々に価格が上昇しました。

特徴的な動きとして、昨年取引頭数2位であった「福之鶴」号産子の頭数が更に増え1位となりました。また、「北美津久」号産子の頭数も大きく増え4位となりました。

○ 令和7年次 最上子牛市場種雄牛別取引実績（取引頭数上位10頭）

取引頭数順位	父名号 (種雄牛)	取引頭数 (頭)	平均日齢 (日)	平均体重 (kg)	平均価格 (円 税抜)	平均 DG (kg/日)	平均 kg単価 (円/kg)	
1	福之鶴	去勢	70	280	333	626,257	1.19	1,883
		雌	83	284	301	518,928	1.06	1,723
			153	282	316	568,033	1.12	1,796
2	若百合	去勢	68	281	339	605,235	1.20	1,790
		雌	52	287	309	529,212	1.08	1,713
			120	284	326	572,292	1.15	1,757
3	福之姫	去勢	73	279	342	676,904	1.23	1,981
		雌	31	290	313	568,774	1.08	1,817
			104	282	333	644,673	1.18	1,932
4	北美津久	去勢	58	281	338	628,810	1.21	1,872
		雌	32	287	308	588,313	1.07	1,916
			90	283	327	614,411	1.16	1,888
5	紀多福	去勢	41	282	339	583,488	1.20	1,719
		雌	31	290	312	508,161	1.08	1,627
			72	285	327	551,056	1.15	1,679
6	百合美	去勢	30	282	323	527,933	1.15	1,626
		雌	42	288	287	414,595	1.00	1,441
			72	286	302	461,819	1.06	1,518
7	幸紀雄	去勢	35	282	313	528,057	1.12	1,656
		雌	32	293	307	501,188	1.05	1,635
			67	287	310	515,224	1.08	1,646
8	貴隼桜	去勢	29	282	329	585,897	1.17	1,778
		雌	22	280	310	549,818	1.11	1,779
			51	282	321	570,333	1.14	1,779
9	知恵久	去勢	11	277	296	543,091	1.07	1,828
		雌	35	290	295	608,000	1.02	2,070
			46	287	296	592,478	1.03	2,012
10	秋忠平	去勢	22	279	348	609,091	1.25	1,756
		雌	18	288	308	478,167	1.07	1,547
			40	283	330	550,175	1.17	1,662
種雄牛上位10頭		815	284	319	564,049	1.13	1,767	
種雄牛 全75頭		1,357	285	320	561,917	1.13	1,754	

○ 優良子牛生産支援事業の紹介

最上地域農業・畜産振興協議会では、優秀な繁殖雌牛の情報を地域内で共有し、生産者の皆様の生産・出品意欲を高めることを目的に、令和7年度より「優良子牛生産支援事業」を実施しています。

最上子牛市場の開始前に行われる、全農山形県本部主催の品評会に出品された最上地域産の雌子牛のうち、優良牛に選ばれた子牛を対象として副賞を贈る取り組みです。

令和7年度は14頭の雌牛が対象となりました。令和8年度も引き続き実施する予定ですので、ぜひ多くの皆様からの出品をお待ちしています。



品評会の様子